

訓練講習受講者作文集

1976. 6. 30

国際協力事業団
海外移住センター



国際協力事業団	
受入 月日 84.9.13	000
	23.4
登録No. 14863	EMC

序 文

移住者渡航前訓練の在り方については、昭和三八年開始以来十四年の歴史の中で検討され、改善が加えられ、パターンの上では一応の定着をみるに至ったが、その成果については、今後の科学的な追跡調査による分析結果を待つ外はない。

しかしながら、受講生が僅か二五日間という短期間の中で、何を学び、何を身につけ、また、意識の上にとどのような変化をもたらすか。本小冊子は、それ等に対する具体的な答である。

JICA LIBRARY



1023960[6]

本講習会修了者は現在までに約一三〇〇名に達しているが、その中から本冊子にとり上げたのは紙数の関係もあって、ごく最近の二四編に過ぎない。しかし、彼等に共通しているものはすべて包含されていると思う。

これ等の中から訓練講習の意義効果といったものの一端でもお汲みとり戴ければ幸いである。

昭和五十一年六月三十日

国際協力事業団

海外移住センター所長

目次

我等地球人	………	宮崎和男	1
時の囁 <small>ささやき</small>	………	宮崎和男	3
講習会を終えて	………	小藤典男	4
受講者へのアドバイス	………	島津 矜哉	5
受講前・受講後	………	志村俊夫	6
講習会を終えて	………	西次雄	7
講習会を終えて	………	伊藤成信	8
未来の国へのチャレンジ	………	東健次	8
渡伯を前にして	………	坂本磯男	9
私の学んだブラジルと 現地における生活設計	………	大石好美	10
講習会を終えて	………	和田 毅	11
講習会を終えて	………	西山桂介	12

五つの誓い	………	佐内	外喜夫	………	24
拝啓、事業団職員殿	………	塩水流	隆道	………	23
新たなる出発点	………	下岡	豊夫	………	22
第二の人生	………	古川	輝夫	………	21
苦学・楽学	………	宮田	芳晴	………	21
気楽に生きよう	………	釘宮	芳生	………	20
私にピッタリ、ブラジル園	………	得永	寛	………	19
大いなる旅への希望	………	石倉	賢司	………	18
会話の重要性	………	石田	秀雄	………	17
講習会を終えて	………	清田	健太郎	………	16
農業は私の生きる道	………	木下	祐治	………	15
私のボ語学習歴と本講習会	………	畠山	周	………	14
「ブラジル号」の騎乗方法	………	坂口	剛	………	13

「我等地球人」

宮崎 和 男

昭和五一年五月六日 新緑の候に奇しくも集った地球人達（グローバルな人種を意味するらしい）。

新天地を求め征く事を決心したその「時」は異なるものの、今こうして同じ屋根の下で、同じ釜の飯を喰っての生活、その期間は僅かに武拾数日のみにも係らず、そこで培われたファミザージュは地球人に相応しいそれである様で楽しくなると共に、同意義的ではありませんが、ここで知り合った多くの人達との巡り合いは一種のドラマをも感じさせます。その交友の中で得た感触は、人それぞれのこれまでの生活環境、又その人生観とか価値観等の「観」の相異、それにも増してその未来に対する構想の違い。それ等が抵抗もなく己れのそれにブレンドされて行くその様は、芳醇なウイスキーの熟成のプロセスにも似てい

ます。勿論、その原酒は己れのそれである事は紛れもないのですが……。

それ等の実感を総合して、この移住センターでの講習の意義について述べるのであれば次の様な数点に集約されると思います。

- 一、伯国に征く事に対する精神面での高揚。
- 二、講義の中で自己啓発の為の起爆剤の発見。
- 三、地球人達との交流の中で新しい「観」の養成。

全てが抽象的ではありませんが、本来、センターでの生活を通じて得るものは言葉の面を除けばその殆んどが短絡的に結果として現われるものではなく、ましてやその影響の度合いに至っては、人それぞれの感受性の差に原因して全く違うもの故、結果的には抽象的でしか在り得ないと考えられます。従ってそれについて巨視的な発想をすれば「人との出会い」しかも同じ様な目標に向っている人（実は全く違っているのかも知れないのですが……）いつの時でも、人との出会いは大きな意義を持つものですが、その大きなそれは、その人から多くの事を吸収出来ると言う事。それは逆に相手も吸収していることな

んでしょうが。人間と言うのは、己れの考え方を唯一正しいと言う考え

に陥り易く（特に話し相手の少ない時。）その点が視野の拡がりを妨げることがよくあります。そんな時、人とか書物とかに出会おうとその是非について第三者的な立場に已れを置く事が出来るものです。

このセンターでの生活はこの点について正に的を得た感が有ります。実際に講義の中で、又人々のさり気ない言葉に、経験談の中に、又将来への抱負の中にキラリと感じる幾つかの已れにない物を突感したものです。

この事以外に、しかしそれは論外的な存在ですが……。語学講習、これは正に論外である様にプログラムの大多数がその為に費やされている現実を考えれば最大の目標であるのは自明の事であり、又それに対するセンターの状況は賞賛されるに値すると思えます。ただその講習生の構成については今回の如く多人数に及ぶ場合は不満足を感じる人の発生が考えられます。その点にしてみても、限られた講師にて行なわれている現状を前にすれば仕方のない事でしょう。それは又受講者側にも原因の多くを感じなければならぬのだとも思った次第です。

総括として、ここでの生活は前述の如き結果により有意義であったと実感しています。

その具体的な一面はアヴァンテ会の発足として、もうすぐ

に胎動し始めています。近い将来、我々が大地を支える礎の数々と成るに至った時には今にも増して、この式拾数日間の意義を皆んなで感じ合うことでしょう。その日がそんなに遠くない事を確信しています。

時の囁ささやき

宮崎和男

今、時の流れの静けさは

際限もなく　あたりをさまよっている

声を密めて……。

人はその中に身を沈める時

何を感じる……。

“自己の内部に燃えたぎる炎か？”

それは答える

“その明るさに目を眩ますなヨ”

何を感じる

“新たなる大地に馳せる夢か？”

それは答える

“たまには、おまえの足許も見てみるヨ”

……。

そんな声の聞ける人となりたいたいものだ……。

「講習会を終えて」

小 藤 典 男

二五日間、わずかこれだけで、今の自分になれたことを大変ふしぎに思っています。当初、ポルトガル語のボの字も知らず入所して、他の人のレベルにおどろき、その不安たるや、大変なものでした。しかしながら、何とか最後まで皆について来られたのは、クラスメートの援助と立派な先生たちのおかげだと思います。しかし、まだまだポルトガル語のスタートライン、ほんとうの苦勞はこれからだと思います。これからが本当の勝負、自分に負けないように、ブラジルに着いても頑張らなくては……。妻子を持ち、三〇才近くになって、暗記力の衰えた頭に、動詞、名詞、男性、女性の変化等、憶えさせるのは大変です。

Esqueci (忘れしました) Não lembro (思い出せ

ません)の連発。しかし先生たちは、やさしく、気長に、教えてくれました。深津先生、大西先生、マガリアス先生、本当にありがとうございました。ポ語の次はイタリア語、フランス語、英語を含め五ヶ国語を話せるようになるのが私の夢、頑張ろう。

それからブラジル事情、政治経済、習慣、医療事情等広範囲に渡るカリキュラムは、私の中から一つ一つ不安を追い出してくれ(実際は新たな不安も出ましたが……)以前にも増してブラジルに愛着を感じ、移住を決心してよかったと思うようになりました。

クラスメイト、当初八人、今では一人減って七人、皆それぞれに個性があり、大変楽しい人達ばかりです。寝食を共にし苦勞を分かち合った仲間達(Arteiros)、二五日間が一〇年来の友達のように感じられる。避った考えを持ち、避った道を歩んで来た人達が、一ヶ所に集まる、これも運命です。これからは強い友情のきずなで結び合い、ブラジル国に於いても、お互いに助け合って行きたいと思います。

ただ一つ残念なことは、研修中に身体をこわした事です。自分の不注意(健康管理のまずさ)が下痢を引き起こしたのだと思います。この苦しい経験を生かし、向こうでの

生活は家族を含め、万全の健康管理をやって行きます。最後になりましたが、二五日間の長きに亘り、貴重な時間とお金をもって、大変有意義な講習を受けさせていただきましたことを、感謝致します。

今後の国際協力事業団の益々の御発展と職員の皆様の御健康を祈っております。

受講者へのアドバイス

島津 矜 哉

まことにありがとうございます。語学集中講習としては非常によい課程であると思います。私の場合は、渡航後の営農知識も併せて習いたいと欲ばりましたので、語学に集中しなかったことを反省しております。特に石川先生に深くお詫びいたします。私よりもずっと若い先生についていけないで申し訳ありませんでした。石川先生の熱心さに頭が下がりました。今後頑張りますので御

勘弁下さるようお願い申し上げます。私達の世話をして下さいました職員の皆様にもお礼申し上げます。こんなに感じのよい講習は初めてで終生忘れません。これからの講習参加者への参考事項として所見を述べます。

1 農業に関する知識は自分で学ぶこと。事業団発行の「農業要覧」は買っておくこと。「パラグアイと日本」は支部で熟読すること。

2 移住知識に関しては、支部で事業団発行の資料等を読むこと。当センターの備付図書もたいへん役に立つ。

移住友の会等に入会して積極的に資料を探すこと。

3 語学に関しては、英文法をもう一度整理しておくこと。単語はなるべく憶えておくこと。コースで使用したテキストブック「Vamos a aprender español」を買って予習しておくこと。この講習に入ったらリス等を利用して早くしゃべられるようになること。新聞等を早く読めるようになること。語学以外の雑念を捨て、語学に集中すること。移住に関する知識は事業団支部でたたきこんでおくこと。

4 健康について

健全なる身体がなければ何もできない。日常から身体をきたえておくこと。毎日体操をすること。団体競技

(バレーボール、野球等)をやリルルールを憶えること。

受講前・受講後

志村 俊夫

四月一日から四月二十四日迄、横浜に於て講習がある
と大阪支部から連絡を受けたのは、極選合格後の三月末
日でした。当初気軽に考え出席すると返答したのですが、
時間がたつにつれゆううつになり、出発前の雑事の多い
貴重な時間を、どうせたいしたこともしないであろう講
習に、三週間もとられることに対し、怒りすら覚えまし
た。だから横浜に出發する日、家内に、つまらなければ
数日後に帰ってくると云い残し、出て参りました。しか
しいざセンターに入所してみますと、起床から寝る迄の
間、ポルトゲスの勉強々々で、またたく間に過ぎてしま
い、家内に云ってきたことを思い出すひまがなかった、
と云うのが実感です。そして現在講習期間中のことを振

り返ってみますに、まず語学重点主義の講習方法、これ
は良かったと思います。そして更に入所しております九
人のブラジル移住者同志が親密になり、それぞれ自我の
強い人達が、ブラジルで頑張るんだ、と云うことを最大
公約数としてまとめ、小さなトラブルすらなく渡伯後
もこのセンター内の雰囲気で、そのまま定期的に話しあ
える場を持ちたい、と云う全員の強い希望で、グアモス
(VAMOS) 会と云うのが発足致しました。とりあえず
今年八月二十一日第一回の会合を開くことになりました
が、これはいろんな意味で大変喜ばしいことだと思いま
す。こう云った結果が生じたり、又語学の勉強も我々自
身の為であり、それ等は自分の意志及希望で作られてい
くものであると思います。唯そう云ったことが生み出さ
れる機会を当センターで企画していただきましたことに
対しまして、深く感謝致しております。
最後に当センターの職員の方々が、いかに我々をして気
持よく出發させ得るかに苦勞せられている御様子、我々
も御期待にそうべく努力致しますが、皆様方も幸多き未
来でありますよう、御祈り申し上げます。

講習会を終えて

西 次 雄

先ず当センターに人所したことに依り、日本の長所、短所それにブラジルのそれが明確になったことである。それと共に我々はより一層の気構えを持たなければならぬことを痛切に感じた。このような事柄は、センターに入り、多方面からの刺激があつて、初めて悟る事と思ふ。

語学に関しては我々の場合、恵まれていたと思う。留学生との対話、又そんなに流暢でない日本語で話す大西先生との授業が、有意義だったのでないかと思ふ。

ブラジルの現況に関する講義に於ても、百聞は一見に如かずとは言いますが、何か現地のことの身近に感じられた。

それから当センターに於けるカリキュラムの中に体育

の時間の設定があることは非常に良いことだと思つた。と言うのは我々は毎日仕事、又は学習を行つていても常に健康管理に注意を払わなければならぬのだと言う認識を得られた。それに付随して体育設備の完備が好ましい。

終了して初めて悟ることは、最初感じていたカリキュラムの構成に対し、受講後の感じが「別にそんなに苦痛では無かつた。」と思ふようになった。むしろ何か今までになかつた自信を植え付けてもらったことへの感謝の気持ちに交つている。従つて当センターに於いて吸収したことを糧にしてブラジルに行こうと思ふ。

なお、欲を言えば講習期間を多少長くして頂ければと思ふ。その期間は今迄習つた事を復習できるだけの期間で良いと思ふ。

講習会を終えて

伊藤 成信

未来の国へのチャレンジ

東 健次

本講義受講中、留学生と親交を持てたことは、大変良かった。こういう機会は、そうざらにないので、自身、非常に積極的にブラジルの事情、あるいは生活について出来るだけポルトゲスで会話するよう努力した。語学に関しては、単語の不足を一番痛感した。語学に關しては、単語の不足を一番痛感した。語学に關しては、単語の不足を一番痛感した。語学に關しては、単語の不足を一番痛感した。語学に關しては、単語の不足を一番痛感した。

ブラジルの諸事情についての講義は若干時間が不足していたと思ひ、詳細な内容にまで知識が得られなかったが、ブラジルの全般は把握できた。現在の心境として、やはり、ブラジルを水住の地として選んだことは、自分をよりよい方向にあゆませる道であると確信している。今後、今回の受講を契機として、より努力するつもりである。

コーヒー、アマゾン、リオのカニバルと云うブラジルのイメージから、広大な土地、資源、工業化政策による技術者不足、労働力のある国と考えを変え、認識する様になったのは、約一年前のことであろうか。当時の私は、某大手会社の一サラリーマンとして、平凡なそして無難な生活を送っていた。しかし、将来共大会社の衛生で終ることの物足りなさを感じた私は、ブラジルへのチャレンジを思いついたのである。爾来、事業団の方々のお世話になり、先方の会社も決まり、渡伯のキップも手中にし、受講の運びとなった。

受講後は、語学を教わると共に、各先生方のブラジル紹介、心得等を聞くにつけ、今まで第三者的感覚でみて来

たブラジルが自分の生活する国として身近に感じるようになり、だんだんと好きになって来た。今はもう、一日も早く現地に行つて、実際に自分の目で確かめ、身体で感じてブラジルの国に早く溶け込みたい。そして、一日も早く生活の基盤を築きたい。

私は今度、同じ会社に入る二人の仲間と共に渡伯する。各々特技をもった、信頼出来る連中だ。先方の会社は、まだまだ小さいが、社長とも会い、皆で協力してやっに行こうと誓い合っている。

我が愛するブラジル。治安の悪い国、公害のひどいサンパウロと聞くにつけ、自分の仕事である建物の環境を良くする設備技術の分野をとおして、街の浄化、発展に大いに寄与したい。そして、いつの日か、移住センターの教壇に立って、後輩のために、ブラジルのピーアール並びに成功談でも講演出来る日を夢みつつ……

渡伯を前にして

坂本 磯 男

ブラジルに渡れば、又諸々の文化に触れ、驚くことかと思ひますが、当センターへ人所しても、新鮮な驚きの連続でした。日本、狭しと云えども、各人の持つ文化には著るしい個性の相違がありました。その異質の文化に触れあいこそ、最大の収穫であり、一日一日を、ゴールデンアワーたらしめた所以であります。ある人は世界経済の中に於けるブラジルの今後を確信に満ちて位置づけし、確信に満ちてそれへの対応策を語ってくれました。又、ある人はポルトゲスの教科書の總てを讀じ、終始講義の索引車たる役割を果たしてくれました。はたまた紳士の遊びに豊富な才を有しブラジルでの大物を連想せしめる頼もしい同志もいました。夜のふけるのも忘れ、語りあつたあのひととき。重味のある、手ごたえのある、す

ばらしいものでありました。もう二度とないでありましよう二四日間のこの講習。こういう機会をつくって下さいました当センターの御配慮に対し心より感謝申しあげます。

私の学んだブラジルと現地に 於ける生活設計

大石好美

現地を見ていない自分にとって、ブラジルは全く未知の世界である。時折マスコミ、ジャーナリズムによって知らされるブラジルとはほんの一部分であることが、今回の講習から伺える。今回の受講を通して知り得たブラジルは、自分なりに判断していたそれとはおおよそかけ離れたものであることに驚嘆せざるを得ない。気候、風土、慣習、食べ物に於てしかり、言語はいうに及ばず善し悪しに拘らず、ブラジル人としての人間性等々新しい世界を覚知するに十分な努力は今後益々その必

要性を認識せざるを得ないものとなるだろう。

現地に於ける様々な説明はこの受講で関係者が十分にその域を超える努力を払ってくれた。現地に到着して後今一度の訓練を通して新たな認識を得、いよいよ出発する訳であるが、後のことは己れの心構え、努力如何によるものと思う。

動機とかが目的で渡伯するのか、よく問われるが、即座に答えられないのは、やはり現地の事情が自己の推測だけでは、その判断が妥当であるか否かが掴めないところ起因すると思う。しかしブラジルは広大無辺な限りない可能性を秘めた国であることだけは、何びとも否定出来ない事実である。己れに力あるならば、してみたいと思うことを全て試行したいと思うのは当然かも知れない。沢山のアミーゴ（友達）も欲しいだろうし、趣味があるならばそれも楽しみたいだろうし、仕事の面で独立できるならそうしたいだろうし、妻や子供に幸福を与えたい成果を報告し得るに十分な何物かを獲得したくもなるだろうと思う。

いずれにせよ肌の色や言語、習慣が異っても人間本来の生き方そのものには相通するものがある。全ての原点は

ここにあると思う。幸、不幸、成功、不成功を成すものは裸になった人間の真心の触れ合いであり、人間の素裸の姿であり、美であり行為であると思う。それ故形ばかりの成功であってはならないし、かりにそうであっても自身不幸を感じただけに終ると思う。たとえ他人からあいつは不幸な奴、哀れな奴と見られても、自身がそこに最高の生き甲斐を感じその人間にとって威風堂々たる人生を歩みゆけるならば至上の幸福といわざるを得ない。私にとってみればブラジルに於て丁度人生の半生を生きることになるだろう。これは誠に意義のある事実と思える。

日本の二十三倍もある大國にわずか一億、今後ますますあらゆる分野で発展、成長しゆくことは必至である。

あらゆる意味で各階層のアメリカを得、それらに融合しつゝ環境に即応し、暖かく迎え入れてもらえる様細心の努力を払ってゆく覚悟である。

ある講師の方が話してくれた。ブラジルに渡って一年位は見るものすべてが新しく楽しく夢中で過ごす、次の一年は慣れてくるからある者は希望を持ち、ある者はがっかりし希望を失う、そしてあとの一年である者は敗者となり、ある者は覇者となつて更に伸びてゆくと。二年目

の別れ道に於て敗者への道を辿ることなきよう、更に更に語学の習得に力を入れ万全を期してゆく覚悟である。そしてブラジル國家の為に僅少なりとも寄与出来るならば、その努力を惜しむことなく能力を充分に發揮するに足る自分に成長していきたい。

講習会を終えて

和田 毅

若き日の夢は、永年土の底に静かに宿り遅ればせながらもやっと芽を出す事が出来た。諸々の手続等もなんとか順調に進み、そして、その一歩たるこの研修会に参加出来たことは、大空に向う新芽の、エネルギー源として非常に有意義に思われた。

さて、伯國についての認識はあまりにも知らなすぎたようで、諸事情についての講義はショックを受けると共に現実性ある内容に対し感謝している。現在はさらに根

強く「同化」の件について目を向け、ブラジル人となり
きれる様努力していきたい。

語学に関しては、自分があまりにも無知であった事は
当然としても、反省の点はかなり有る。一日で進む量を
まとめるだけでも遅くなってしまう、覚えるまではとて
もついていけなかった。それでも初めてポ語を聞いた日、
つまり入所して二日目の事から比べると、少々進歩出来
たと思われる。だが自身の反省の中で又又考えざるを得
ないものは、語学に対する不安を少しづつなくしていく
よう努力して行きたい事、この講習で得た大きな収穫は
友人が非常に努力家ばかりで、己の心の中にもそれに対
するギャップを埋めていこうという意欲が湧き出てきた
こと、語学に関しては渡伯してからも、一般に会話でつ
かうもの以上のものを勉強していきたいと思う。

二十五日間の合宿も時には長く感じられたが、すでに
終りの日が来た。諸々詰まつづる事はあるが、ともあれ
渡伯まであとわずかである。自分の半生を生き抜く為
にも決意をかたくしなければと思う。これまでの日本に於
ける人生は、人間形成期間であった。これからはそれら
を基に、ブラジル社会に対し思う存分發揮していける自
身に、さらにさらに勉学努力していくつもりである。

講習会を終えて

西山桂介

二月二日、共同生活の第一歩は、オリエンテーション
での今回受講する人達との顔合せから始まり、夜の座談
会での各自の夢を聞くにつけ、目標が、個々の考え方の
相違の中にも一つにしほりこめる点が多々あり、楽しい
生活の幕あけとなった。講義は、各先生方の指導により、
五日目頃から私なりの軌道を見つけ、なんとか乗せる事
が出来、その後日毎ウエーブをつけ、今回講習の目的に
向い全力をあげたつもりであり、うれしい限りだ。ただ、
日々の生活を考えると、この講習を受け、不透明な点が
はつきり表に出てくるにつけ、心配はふくれあがった
感が強い。これも、皆と一緒に考えると、なんとなく救
われる気持がする。甘えだろうか。

この講習は、二十五日間という短い期間ではあるが、

ブラジルという広大な国（政治、経済、風俗、宗教他）を理解する上で、実に細かく、深く教えていただき、これからの私の方向づけに、助力となり、励みとなった。私の大きな夢が、私の頭の中から、現実にはブラジルの大地に花開き実を結ぶよう努力あるのみだ。

いろいろありがとうございます。

「ブラジル号」の騎乗方法

坂 口 剛

なぜブラジルに行くのか？最近の移住者は無理に定義づけられない様だ。又成功とか失敗とか言うが、日本に居たって成功する人はするのだ、今まで日本で働いていた事は日本の繁栄になっており世界の繁栄になっている。それをただブラジルという国でやるだけで、ブラジルに行ったから急に人生がバラ色になったとか、人生がガラッと変わったとか考えるのは女学生並の感覚というものだ。

企業は即実戦向の技術屋を求めているが、どの様になるうとあわてる事はないのだ。金もいらねば名もいらぬ、まして命もいらぬ、何を失ってもおしくない、その心境になった時、人間は強力な力を発揮する様だ、これを競馬にたとえて書いてみよう。ブラジルをドから勝ち上がって来た上り馬としよう、穴馬だがマスコミに騒がれけっこう人気になっている。しかし、今買わないとボンボン勝たれてからは悔いを残す。まあオッズをチラチラ、馬券を買っているところか？ではブラジルをどう乗りこなすか？単騎の逃げはできそうにない。先行して好位抜け出すか？これも直線で伸びない様だ。では中団キープで直線のたたきあいにかけるか？並ぶ間もなく先行馬をかわず足が使えるか？直線で横一線になった時グイグイ出て競り勝つことができるか？競走馬ブラジルは実力はあるがどういう乗り方が一番いいか？展開次第だがスローペースに持ちこまれたら届かず、足を余して負けるおそれもある。その時は四角（コーナー）で先行馬をとらえる位置に上がっていかないければならない。それはブラジルでの自分の判断だ。後方一気の追い込みという手もある。直線まで足を残しておいてゴボウ抜き、実力、資金等を長年準備しておいて他の

馬が止まった様に見える鋭い足、これが独立あたりにあたるのだろうか。スローペースにはまった場合は後方のままに終る恐れがある。ということはブラジルで初心を忘れ後方のままということなのだが……。皆さんブラジルをどう乗りこなすだろうか？ 鞍上は名手ばかりだが……。

私のポ語学習歴と本講習会

島 山 周

約一カ月間の研修を終えて一番良かったと思うことは言葉ももちろんですが、一般的な話も折り込んであったことだと思えます。

私はブラジル永住に際し、事前に現地を見たく、その中で一番素晴らしいと思ったりオ・デ・ジャネイロに四ヶ月間言葉の勉強と一般的な知識を得る為に住んでみました。その為日本に帰って来てからも精神的に余裕があ

ると自分自身甘えていたのですが、ここへ来て基本的なブラジル政府の考え方、歴史、医療状況、宗教と生活、海外と日本の相異点という素晴らしい内容を聞かせて戴いたことは、私自身、大変勉強になりました。そしてこれ等基本的な考え方を大切にした上で、つかみどころがないような国、ブラジルに自分をぶつけてみたいと思います。

又語学に関しては、ブラジルにいた時初級、四谷の上智で初級一回、中級二回をやったから、ここに人所したわけですが、一番感心したのはブラジル人の先生であり、又教え方を良く研究していることです。と云うのは帰国した頃会話に自信があったのに、学校へ行くに従い文法が気になって会話力がどんどん落ちてくる、お金は払わねばならないというジレンマに落ち入ったのに、ここでは会話的な語学の教え方であった為、少なくとも帰国当時よりは自信がもてました。ただ残念に思えるのは、ここでの授業のペースが平均的レベルを中心にしていてことだと思えます。私が考えるに、人所前の事情がどうであれ、初めて習う人が多いのであれば、それ等の平均をペースに進めるべきであり、又それ以上知っていればここで配布される教科書を自分のペースでやれば良いと思

います。又それが皆の為の授業になるものと私は信じません。本当にいろいろ教えて戴き誠に有り難うございました。

農業は私の生きる道

木下 祐治

ブラジルへ渡る迄一月余り、今考えることは、彼の地で自分自身の姿である。地球の裏側で五年後、十年後には、どういう状況に置かれているだろうか。いや、渡伯直後の驚き・困惑の顔が目に見えかぶ様である。

ここに来て以来二十日余り、ブラジルに関し、色々見聞きし、予備知識を得、以前持っていた考え（ブラジルの熱帯・亜熱帯の地域では年中夏であり、四季の感覚はほとんどない事。ブラジル政府は、日系人の功績を高く評価していて日本人の移民を優遇してくれるのではな

いか等）を改め、ブラジルの顔が少しづつ現実のものとなって来ている。しかし、これも又同様想像の域を脱していない。実際に、そこに身を置いてみないと本質は分からないからだ。

人から聞いた事でこんな話がある。

「いまでは、農業移民で成功した人はほとんどいない。大体、他の職（例えば、クリーニング業）に転じ、生活した者はいいが、農業に固執した人は哀れな状態で年老い、故国へ旅することも出来ず一生を終っている。それに対し工業技術者などは、ブラジルが発展途上国であるからよい結果が期待できる。」と。

なるほど、そうかもしれない。しかし、自分は農業が好きで好きでたまらないから行くのだ。作物と語り、生産の喜びを味わいたいから農業をやるのだ。きびしい社会的、自然環境に遭遇しても明日を目指してやるだけだ。

講習会を終えて

清田 健太郎

厳しかった、しかし有意義な経験をした。これが訓練講習二十五日間の私の実感だ。

特に同じような目的を持った人達と一語に生活し、夜遅くまで語り合い、友情の輪を広げる事が出来たのは、大きな希望を持ちながらも一つのからに閉じこもりがちであった自分にこの上ない良い経験であったと思う。

又自分自身四ツ谷の研究会にいた関係上、ある程度、ブラジルに関する情報を得るチャンスはあったが、今講習で沢山の講師から、種々な角度からの生の体験、情報を聞く事が出来たのは、これからブラジルに行く自分にとって精神、物質両面の準備の為に非常に有意義であった。ブラジルの工業事情、社会事情といったものは、自分自身すぐに関係があるためか、ある程度の予備知識が

あったし、それが講師の方の語の内容とあまりかけ離れたものではなかったので安心した。

移住に関して原点である現地社会への同化カルチャーショックへの対処方法等、一番大切な問題でありながら、「苦しいのは最初の二年間だ、二年間がまんしたら楽になるよ。」といったような、くさいものに蓋をしてしまえ、というあまえが自分自身にあったと思う。この点に関して現在のうかれた気持ではなく、もう一度原点に戻って、冷静に考えて見る必要があると思った。又自分自身健康である為か、医療事情にはあまり感心がなかったが、その実態を聞いた時には、いささかびっくりしたというのが本音である。又中南米の歴史の講義は非常に興味深く面白かった。

講習の一番の目的である語学は、四ツ谷の研究会にいた関係上ある程度の予備知識があったので、授業についていく事にはさほど苦にならなかった。けれども自分自身の語学の上達という点については意外に伸びていなかったのではないかと思う。

講師の方が一生けん命教えて下さった事に感謝しているし、一方私自身も勉強をおろそかにしたとは思わない。それは言葉を覚えるという事がいかにかむずかしいかとい

う事にはかならないと今一度認識を新たにしている。
これから先、今まで経験しなかった苦勞がまぢかまえて
いるであろう。しかし現在その道がいかにけわしくとも、
必ずのりこえてみせるといふフアイトに燃えている。

会話の重要性

石田 秀雄

現地事情の説明について―全講義を通して非常に有意
義だった。各講師の担当範囲が多岐に渡っており、私達
は、それぞれ点の知識ながらブラジルの多様性がある程
度理解できたと思う。この様な講義では私達は常に受身
の立場にあり、本講義で初めて教わったという事柄も多
かった。結局は本人が向こうへ行つて見て始めて解る事
柄ではあるが予備知識として大変貴重だった。

会話について―秦野では会話を重要視せず主として文
法に重点を置いていたが、今回大西先生や留学生との交

流で「会話する」という事の重要性とその意義が解った
様な気がする。会話の意義とは多分にこちら側が相手の
心の奥深く通じあわそうとする努力にあると思う。ただ
単に単語を覚えるとか文法はどうかではなくこの努力
によって会話が成立するし、また上達するのではないか
と思った。今まで生徒同志で向いあつて話をしていたが
これだと多少話せなくても相手が理解してくれるだろう
という甘い考えを持っていたが、今回は多少日本語は人
つても何とか理解させようとポルトゲスで話そうと努力
した。これは貴重な体験だったと思う。この体験でセン
ターを出たあと何と自分なりに会話が上達できそう
だという実感を持つことができた。最後にこの様な機会
を得ることができたことを感謝します。

大いなる旅への希望

石 倉 賢 司

雄大な自然と資源を持った国、計り知れぬ未来への発展と希望を秘めた二十世紀の大國ブラジル、その国へ自己の未知の可能性を求め、今、私は旅立とうとしている。

私が始めてブラジルを知ったのは、昭和四十七年も終りの頃だった。サンパウロに到着した私は、ブラジルに對しての無知を痛感せずには居られなかった。私のブラジル感は、リオの海岸であり、カーニバルそしてアマゾンのジャングルであった。しかしその時、目にするブラジルは、東京にも劣らぬ大都市のコンクリートジャングルであった。しかもその大都會を一步離れると、広大な自然と未踏の荒野を持った国なのである。二年間のブラジル生活を通じて、私はこの国が好きになった。この国こそ私の夢を育ててくれる大地なのだと思じた。人々は常

に、愛を基本として家庭に、職場に、又交際にと行動し、生活を樂しむ為に働いていた。今日の日本人が忘れかけた人間性の尊さを、私は彼らの中に発見したと思う。そして、その人間性を失う事なく、日々に除々に、しかも確實に発展して行く國がブラジルなのだ確信した。私はそんなブラジルに住み、日本人の魂を持ったブラジル人として、全ての人生を試みたいのです。今の私に与えられた使命は、いかに早くブラジル人に成れるかと言う事だと思ふのです。そして、それが満たされた時、初めて個人として持っている希望を實現する為に行動を開始するでしょう。それは小さな積み重ねであり、限りない大きな現実に続く夢なのです。それは人々との和であり、幸せな家庭であり、私を必要とする社会を造り、常に新しく大きな希望を持ち続ける事なのです。

私にピッタリの国ブラジル

得 水 寛

ブラジル………。

日本の二十三倍の国土を有する国、資源の豊かな国、七ヶ国と国境を接している国、カトリックの国、混合人種の国、日本人が七十三万移民として活躍している国、人種差別がほとんどない国、陽気な民族の国、職能給の国、レディーファーストの国、日本を日本として工業国を目ざす発展途上の国……その他多々。

まだ見ぬブラジル……の外観がどんなものであるかは大体においてわかる様な感じがするが、いざ、現地にいってみるとどうだろうか。

不安と期待はかくせない。どうしたらいいだろう。言葉……通じるだろうか。まず無理だろう。どうすればよ

り早く身につけることができるだろうか？ 女性の友達を早くみつけて、先生がわりにしよう。学校に入るのもいいかな。日常会話はどうにでもなると思う。仕事に於ける専門用語の方が重要な感じがする。どうしよう、日系の技術者を通して勉強した方がいいだろうか。毎日の積重ねで少しずつあせらず、じっくり覚えよう。

最初の一年間はブラジルとはどういう国か、ブラジル人とはどういう人か、ブラジルで生活していくためにはどうすればいいのか、それに、言葉、これらを肌で感じ、身体で覚えよう。積極的にブラジル人の中に人っていき、共に笑い、共に泣こう。これらの中から自分の今後の具体的な生活設計というものが出来てくるだろう。

今はまだまだ未知の国だ、今、具体的な生活設計をたてていても、どこでどうなるかわからない。今はただ、自分は向こうで独立して事業をやるということ、水住しようという気持ちで、ブラジル行きを待っている状態である。自分にピッタリの国だ。すばらしい未来が待っているだろう……。

気楽に生きよう

釘宮芳生

日本の二十三倍の広大な大地、眠れる膨大な地下資源、激しい貧富の差、人種のもつほ、しかし人種差別は少ない。私の持っているブラジルに対する知識である。

しかしこれでは、外国人が日本に対する富士山、芸者と大差ない。

しかしブラジルで生活した人の話を聞いても千差万別である。逆に言えば、それだけブラジルが広大であるという事かも知れぬ。ブラジルで生活するにあたって、言語及び風俗、習慣等を早く理解し、生活にとけこむ事が成功する早道だと言うが、日本の風俗、習慣さえも完全に把握できないのに少々無理な話である。

しかし、例え、風俗、習慣、国、人種が違っても、人を愛し、人を信じ、人を慈しむ人間の心は、未来永劫、不

変である。人を裏切るよりも、私は裏切られる人になりたい、信ずる者は救われる。
花は紅、柳は緑、川は流れ、星は降る、大地は広く、時間は長い、夢は大きく、ゆっくり、のんびり、気楽に生きよう。

輝く太陽

情熱のサンバ

愛らしき乙女に

心を燃やす

素晴しきかな

我が人生

苦学楽学

宮川 芳晴

七年前に学校を卒業した頃の緊張しながらもやる気充分だった気力（自分の人生目的に、真向からたち向かうエネルギー）がふたたび思い出されて、今自分としてはかなり充実した毎日を過ごしています。今回の研修での語学授業は全くうれしいうれしい限りでした。もちろん社会人となる前に学校での授業を受けてきた訳ですが、自分は授業でうれしかったとか楽しかったとかいう経験は皆無に等しいのです。早い話が大きらいでした。しかし今回の語学授業は熱中する事が出来ましたし実際に楽しい時間でした。ブラジル国に工業技術者として自分と共に移住する仲間達がそれぞれに面白い個性とフィーリングを持っておられるので本当に良い勉強になりました。それぞれに自分の人生目的をはっきり持ち、それに向かって積

極的につき進む自信を持っている事だと思えます。一ヶ月後にはこの様な素晴らしい仲間達と一緒にブラジルに渡り、自分の人生と可能性に挑戦できるチャンスを最大限に生かす様努力するつもりです。先生方当センターの職員の方々有難うございました。

第二の人生

古川 輝夫

ブラジル国、それは、移住を志す私にとって、人生に於ける未開の地である。

この国について、外部からのわずかの情報及び知識で将来を語ることは出来ないだろう。

しかし、これから旅立とうとする限りは、私なりに、ある程度の考えと邁進するだけのエネルギーは持っているつもりである。

まず第一に考える事は、何をいっても外国であるという事だ。この観念を捨てない限り又日本と比較して物事を見たり、考えたりしていると、いつまで経っても、その国に同化することが出来ないだろう。

私も常々、自分に言い聞かせてはいるが、現地で言葉のハンデイーからくるジレンマにより、脱落しないとも限らない。

だから、現地に行ったら、まず夜間の会話学校に通うつもりである。

それから、出来るだけ多くの友達をつくり、又自分の足で歩き回り、自分の眼を通して実際のブラジルを早く知りたい。その中で自分の技術に対する、本当の可能性を見つけたし、技術力を高め、知識を拡大しながら、確固たる目標を定めていきたいと思う。

「若さ」という力強い味方と共に渡航し、じっくり腰をすえ、情勢に動化されることなく、第二の人生を、青春を精一杯に生きるつもりである。

新たなる出発点

下 岡 豊

二年前、私のブラジルについての知識は、未来と現在そして過去が同居している国というものでした。そして現在の考えもほとんど同じです。赤道から雪の降る所まで広がる混血の進んだ文化には、日本という国では、考えもできない特異性があると思います。

自分の人生の長さを七十五年と計算した場合、現在までに三分の一を消費してしまいました。今までに得たものは何かと問われても答えることはできません。ただ日本で生活してきたということはできません。そして残りの三分の二の人生を過ごすのは、ブラジルという国になりませう。自分が生まれ、育ち、そして教育を受けた国と異質の文化を持つ国では、新しく生まれた気持で生活していかないといけないうしょう。しかし残念ながらもう一

度生まれかわることはできません。今までに得たもので良い物は伸ばし、取り入れるべきは取り入れれば又一風変った独特のものができると思っています。具体的には生活様式等は、赤ん坊の気持で、仕事面では現在のものを発展させるという気持で行こうと考えています。

私の場合、渡伯後結婚問題がでてくると思いますが、欠点を持った二人の人間が集まって生活を続けていくことは、運・不運が左右し非常にむずかしいことと思っています。自分としてはどんな形態でも良いと思っています。日本を離ればもっと大きな視野で物を見ることができ、第三者的な判断ができるものと思います。

ブラジルの生活設計の第一歩は、一日も早く現地に慣れること、そして生活に困らないように言葉ができるようになることだと思っています。自分の場合、渡伯後、三年間を語学修得に計算しています。その間はできる限りの犠牲は覚悟しています。その後自分の進むべき道を考えてもおそくないと思っています。日本の現在の状態では考えられない、自分にも可能性があるということだけでも、ブラジルに行く意味があると思っています。

拝啓事業団職員殿

塩水流 隆 道

私は、移住を決めたのが遅く、中途からの入所となりましたが、入所前は、出発までの大切な時間を自分なりに計画しており、二週間も「カンズメ」にされるなどはもつての外だなどと考えておりました。しかし今は、もっと早く、四月一日から皆と一諸に訓練を受けられたらと思っております。まず第一にスペイン語の文法的基礎が一応得られたこと。これは、入所前の私の考えからすると思ってもみなかった収穫でした。次に、他の移住者を知り得たこと。これも外地で働く際、極めて大切なことで、思ったより、私達は交流の機会が多いのではないかと思います。さらには、事業団の職員の方との交流、知り合いになったこと。これも、私達が、帰国、出国、外地での仕事等で、必ずやお世話になるのが事業団で、

やはり移住者の一番の頼りどころとなる所です。職員を個人的に知り得たことは、今後の私達に大きなプラスとなるでしょう。最後に、外地の状況を人手でできること。これは、遅れて入所の為、私は殆んど聞けず残念でした。

私の希望を述べるならば、職員、移住者を混じえて、移住について真剣な討論をかわす時間を作ることが必要ではないかと思えます。確かに個人的には、新入事業団職員等と討論はありましたが、もっと計画された場での討論をするべきでしょう。なぜなら、そうすることが、今後ますます多様化するであろう移住形態に対し、自分の目的、認識が明確にされ、外地へ行ってからの行動がスムーズに成されるものと思えます。

最後に、私の母校の農大生及び箱根植木株式会社で、今後、後に続く移住者を、私共々よろしくお願いします。

五つの誓い

佐 内 外喜夫

私はブラジルとは、とても良い所だと信じ聞かされて居る。不自由しない日本のオアンス生活を振り切って、外国へ出る事は、大きな勇気が必要であり、特別の苦勞をやり遂げ、青春の生きがいを求めようとするものである。

「偉大なるブラジル」へ乗り込もうとする数多くの中の一人として、私とブラジルとの出逢いから述べる事にしよう。

小さい時から世界へのあこがれは、ひそかに秘められ、大きくなったら何々に成りたいというよりも、冒険心がおう盛な為か、とにかく未開発の国へ飛び込みたいという強い志を常に持続してきた。体を鍛え、何でも興味を持ち、あらゆる技能を付け、精神力、忍耐も充分保たれ

る様に成った。しかし、いつまでたっても、まともに役に立つ語学力、かんじんの物が修得出来ず今までに至った。この度、この場で、語学をマスターしようと思心した。語学を学ぶと同時に講義から、ブラジルというおもしろい国を発見した訳だ。日本の様にある程度、わく付けられた人生感覚と違い、もちろん実力主義であるが故、大きな希望が生まれる不思議な位、魅力的に感ぜられた。# ブラジル#と聞いただけで勇気が湧き出る様に成った自分を見て私の望んだイメージに近く、驚きと喜びで一杯に成る今日だ。

残念な事に私は二十六才だ。五年前で有れば相当の行動力が期待されただろうが、これからは、一日一日を大切に今までの体験を充分に生かし、言葉を学ぶ努力も怠らないよう頑張りたい。もちろん学校へ通いブラジル人と溶け合いブラジル社会での貴重なる人材となる様、頑張らねばならない。私の一つの信条として、今日一日、三つの恩（社会、教師、親）を忘れず、喜んで進んで働きます。今日一日、三つの無駄（時、金、心）をはいし、気付いた事はすぐ行ないます。今日一日、腹を立てず、不足の思いを致しません。今日一日、人の悪を言わず、おのれの善を語りません。今日一日、明るく大地を生き

抜きます。今日一日の五つの誓いを通し、トンネルを通り抜きたい。私の夢は怖い位、大きい挑戦して見ると、かなり成功しそうだ。だから、夢で終らせず、計画を實現するよう最善を尽して生きて行くだろう。

